

■研究推進委員会 活動計画書

提出日：2020年11月30日

名 称	都市公園リノベーション計画技法研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：平田富士男（兵庫県立大学）
幹 事	氏名（所属）：平松玲治（（一財）公園財団） 連絡先 e-mail アドレス：reiji-hiramatu@prfj.or.jp
その他 構成員	氏名（所属）（五十音順） 今西 良共（岐阜国際園芸アカデミー）、金清 典広（高野ランドスケーププランニング（株））、川尻 幸由（（株）エイト日本技術開発）、後藤 幸（岩間造園（株））、新保奈穂美（筑波大学）、曾根 直幸（国交省）、竹内 智子（千葉大学）、橘 俊光（（一社）日本公園緑地協会）、徳永 哲（東京大学）、萩野 一彦（（株）ランドプランニング）、別所 力（James Corner Field Operations）、町田 誠（ソーイングワークス）、脇坂隆一（国土交通省）
目 的	<p>本研究推進委員会の目的は、これまでの一般的な新設公園の計画の技法とは、異なるリノベーションの計画技法を体系的に明らかにしていくことである。</p> <p>我が国の都市公園事業は、新設・面積拡大→マネジメント、長寿命化の時代を経て、ストックの機能を最大化させる「リノベーション」の時代に入った。都市公園の新設事業は今後減少の一途をたどるなか、ランドスケープ界における事業量を維持していくためには、「リノベーション」を確実に事業化し、その事業を着実に推進し、都市公園の機能をさらに高め、都市施設としてより一層評価されるものにしていく必要がある。</p> <p>しかし、都市空間のなかで足りないところを探して、そこをランドスケープ技法で埋めるという新設の事業とは異なり、すでに空間としてはランドスケープ施設で埋められているところを作り替え、新たな機能を発揮させていくリノベーション事業は、どのような計画手法で事業化の対象地を選定し、どのように計画内容を検討し、どのように実現していくのか、体系的に確立したものがない。</p> <p>そこで、本研究推進委員会では、今後の都市公園事業における比重が増すリノベーションの計画技法を体系的に明らかにしていくことに取り組んでいく。</p>
活動計画 及び 想定される 成果 (1年目)	<p>1. 活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政側におけるリノベーション事業の事業化業務内容の把握、整理 ・実務側における事業化後に取り組んだ業務内容の把握、整理 ・マネジメント側からのリノベーションに対する要望内容の把握、整理 ・以上を踏まえた、新設の計画技法との差異の明確化 ・現行のランドスケープ専門教育の体系との比較による教育の不足分野の抽出 <p>2. 想定される成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のリノベーションの時代において、ランドスケープ界が取り組むべき計画技法研究のテーマの抽出 ・今後のランドスケープ教育において必要となる分野の抽出とその内容の明確化
(2年目)	<p>1. 活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野における1年目の成果を融合議論することによるリノベーション時代における計画の体系の枠組みの構築の試み ・今後の教育内容提案に対する意見聴取 <p>2. 想定される成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リノベーション時代における新たな計画技法体系案の構築 ・今後のランドスケープ教育体系案の提示 <p style="text-align: right;">以 上</p>